(通巻3901号/毎週日曜日発行/2026.9.20)　キリスト品川教会　品川区北品川4-7-40　TEL03(3443)1721

泉のほとり

●三位一体後第十六主日

今月の詩編「第百二十編」

主よ、わたしの魂を助け出してください。
偽って語る唇から
欺いて語る舌から



生きるにも死ぬにもキリストが

人にはそれぞれ「終わりの時」があります。誰もが知るこの事実。しかし、この事実ほど意識しているようで、意識していないものもないのではないでしょうか。使徒パウロの生涯を追っていきますと、迫害や苦難、あらゆる試練を受ける中で、幾度も死の危機に直面してきたことが分かります。このフィリピ信徒への手紙も、そのような境遇から送られた手紙と言えます。

パウロはエルサレムで捕えられ、長い旅をしてローマへ移送され、なお監禁されていました。数年にわたり身柄が拘束されていたのです。ところが、そのパウロから発せられる言葉は、「一日でも早くこの苦しみから逃れたい」という願いではありませんでした。彼は「兄弟たち、私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったと知ってほしい」と語ります。

パウロの監禁は、フィリピの兄弟たちにとって大きな心配であり、悲しみであったでしょう。しかしパウロは、その出来事が福音の前進に役立ったと告げます。彼がキリストのために捕らわれていることが兵営全体に知れ渡り、多くの兄弟たちが確信を得て、恐れることなく勇敢に御言葉を語るようになったからです。不自由な身でありながら、その自分の不自由さを通して、かえって福音は前進していたのでした。

しかし、その中には不純な動機でキリストを告げ知らせる者たちもいました。妬みと争い、自分の利益を求める思いから、獄中のパウロをいっそう苦しめようとする人々がいたのです。けれどもパウロは言います。「だが、それがなんであろう。口実であれ、真実であれ、とにかく、キリストが告げ知らされているのですから、私はそれを喜んでいます。これからも喜びます」と、ご自分への妬みや敵意に捕らわれることなく、キリストが宣べ伝えられていることを喜ばれる使徒パウロの信仰。

更にパウロは「このことが私の救いになる」と言います。ここでの救いは、単に監禁から解放されるという意味ではありません。自分を貶めようとする者たちの不純な動機も、それに伴う苦難も、主イエスの苦しみと死にあずからせるもの。それは自分をキリストの復活に与らせるもの。「生きるにも死ぬにも、私の身によってキリストのみが高められ、死ぬことも利益なのだ」と。ご自身の命にさえ拘らない、神に委ね、完全なささげ物として差し出される、その解放された「たましい」、救いをこの使徒の姿から見るのです。

使徒パウロは兄弟たちに「この世を去って、キリストと共にいたいと熱望しており、この方がはるかに望ましい。だが他方では、肉にとどまる方が、あなたがたのためにもっと必要です」と語られました。この地上に生き続ければ、待ち受けているのはあらゆる苦難、迫害。それでも、「フィリピの兄弟たちのためなら」、構わないとしているのです。最後まで、兄弟たちのためにご自身を惜しまないその愛が示されているのです。

最後にパウロは、フィリピの教会に「ひたすらキリストの福音にふさわしい市民として生活を送りなさい」と勧めます。彼らもまた、反対され、脅かされる苦難を通っていました。「キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられている」とパウロ先生は語ります。兄弟たちの苦難をも悲しみと見ず、恵みと見ていました。使徒パウロが苦難の只中で喜び、これからも喜びますと話された同じ恵み、救いが、実際、彼らの苦難を通しても与えられることを見たからです。

私たちにも終わりの時があります。限られたこの日の下の時、私たちのために十字架と死と復活を通られたキリストの福音に生きていきたいのです。生きるにも死ぬにも、私が生きるのではなく、私を通して、私たちの教会を通して、キリストが生きる。その信仰に進んでいきたい。そのために、今、私たちが立っているところを見分け、それぞれ到達したところから、キリストに向かって前進していきたいと思います。

（フィリピ一章一二〜三〇節　黄 允湜 牧師）

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、
愛と交わりを通して
お互いに成長する教会

《２０２６年度
教会全体課題》

神さまによって
示された新しい歩みの中で、
キリストの体としての一致を
祈り求める
ーコミュニケーション、交わり、
伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○定例役員会をカナンルームで行います。役員の方はお集まりください。

○次回の洗礼式と転入会式は一二月二〇日のクリスマス礼拝の際に行う予定です。受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、一〇月一一日(日)までに牧師宛ご提出ください。願書は教会事務所にあります。

《ロビーの会より》

本日の礼拝後、ロビーでコーヒーサービスを行います。ホットコーヒーとお菓子を七〇円で販売します。どうぞお越しください。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会を第二、三シオンルームで行います。

《ルツの会より》

本日の礼拝後、ルツの会を地下ホールで行います。民数記二七章後半を学びます。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《祈りの会より》

九月二七日祈りの会をホール集会後第二・三シオンルームで開催します。皆さまのご参加をお待ちいたしております。

《聖歌隊より》

今年もクリスマスイブ礼拝に向けて拡大聖歌隊で臨みたいと思います。

今週から練習を開始します。ご参加頂ける方や見学の方は、聖歌隊員までお声かけください。毎週一三時から一時間ほど地下ホールで練習します。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
(司・会)の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百二十篇】都に上る歌。

苦難の中から主を呼ぶと
主はわたしに答えてくださった。
「主よ、わたしの魂を助け出してください
偽って語る唇から、欺いて語る舌から。」
主はお前に何を与え
お前に何を加えられるであろうか
欺いて語る舌よ 勇士の放つ鋭い矢よ
(司・会)
えにしだの炭火を付けた矢よ。

わたしは不幸なことだ
メシェクに宿り、
ケダルの天幕の傍らに住むとは
平和を憎む者と共に
わたしの魂が久しくそこに住むとは。
(司・会)
平和をこそ、わたしは語るのに
彼らはただ、戦いを語る。

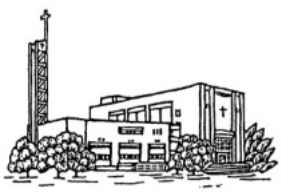
《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説　教「人への神の御心を忘れず」
聖　書　創世記9章8~16節
説教者　宮間 彰広 兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説　教「神と言葉が通じるように」
聖　書　創世記11章1~9節
説教者　宮間 彰広 兄

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)
讃美歌　22番　339番
説　教「キリストの思いをあなたのうちに」
聖　書　フィリピ2章1~11節
説教者　黄 允湜 牧師





主日礼拝 (午前１０時３０分)

讃美歌	４９４番　　１９６番
説　教	「聖霊に導かれる群れ」
聖　書	使徒６章８～１５節(新約 P.223)
	使徒７章５１～８章１節(新約 P.227)
司　式	山下 純一 兄
聖餐司式	黄 允湜 牧師
説教者	吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「キリエ、聖霊なる神よ」J.S.ﾊﾞｯﾊ

○讃美歌４９４番

1.わが行くみち いついかに
　なるべきかは つゆ知らねど
　主はみこころ なしたまわん ※
（※くりかえし）
　そなえたもう 主のみちを
　ふみてゆかん ひとすじに

2.こころたけく たゆまざれ
　ひとはかわり 世はうつれど
　主はみこころ なしたまわん ※

3.あらうみをも うちひらき
　すなはらにも マナをふらせ
　主はみこころ なしたまわん ※

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○聖歌隊による讃美
「救い主のみ手」　P.HOULIHAN作曲
羊のように主を求め
母の腕の子のように　育てられるバラのように
主に守られる
深い闇から救われ 真(まこと)の愛を知る
主はみ声もて呼び み手を延べ触れたもう
主の救いのみ手は 平和を与え
命と救いを示し導く
み言葉の平安を知り　真(まこと)の希み見出す
主の愛は輝いて　世界に満ちる
あなたが心開いて　み言葉聞くなら
共におられる主のみ手に 気付くことでしょう
救い主のみ手は 平和を与え
命と救いに導いてくださる
平和の主の み手は

○讃美歌１９６番

1.うるわしきは 神のみとの
　きよき愛の みてる宮よ
　こころは み神を慕いて 燃えたつ

2.あめにとどく いのりの家
　つかえまつる このよろこび
　行かばや うたごえ合せて み前に

3.くらき谷も 恐れあらじ
　あまつみ国 われを待てば
　ひかりは 栄の御座より さしいず

4.したいまつる 愛の神は
　このみとのに のぞみたもう
　たたえよ 心のかぎりに みいつを

アーメン

聖餐曲「恵み豊けき主をほめたたえまつれ」J.ｶﾙｷﾝｽ

後奏曲「アレグロ・ヴィヴァーチェ」A.ｷﾞﾙﾏﾝ